鹿屋市水道事業ビジョン（経営戦略）改訂版
に基づく取り組み評価概要報告書
【令和７年度評価結果】

〈 目 次 〉

1 評価の目的…… Ｐ１

2 評価の方法…… Ｐ１

3 評価結果の概要…… Ｐ１

(1) 実現方策の評価結果 …… Ｐ１～Ｐ４

(2) 投資・財源計画の評価結果 …… Ｐ４～Ｐ５

4 総括 …… Ｐ５

5 資料編

(1) 実現方策評価総括表 ……Ｐ６～ Ｐ14

(2) 投資・財源計画評価総括表 …… Ｐ15

(3) 投資・財源計画評価総括表の分析 …… Ｐ16～ Ｐ17

令和８年10月

鹿屋市上下水道部

業務課・工務課

1　評価の目的

令和６年度に改訂した「鹿屋市水道事業ビジョン(経営戦略)」に示されている具体的施策や投資財政計画の進捗度等について評価を行い、その結果を予算編成や事業計画に反映させることにより、継続的な経営改善を図る。

2　評価の方法

上下水道部の業務課・工務課による自己評価として、担当係が「実現方策の進捗度」及び「投資・財政計画の健全度」について１次評価を行った後、次に係長級以上の職員で構成する「鹿屋市水道事業ビジョン(経営戦略)内部評価会議」が、１次評価の内容が適当であるかを総合的な視点から判断する２次評価を行い、最終的な評価を決定するものである。

⑴　実現方策の評価(72 項目)

取り組み内容から現状を分析し、その進捗状況を「完了」、「Ａ：順調」、「Ｂ：概ね順調」、「Ｃ：遅れている」、「Ｄ：その他」の５段階に評価する。

その結果を受けて、今後の取り組みの方向性を「１：拡充」、「２：維持」、「３：改善」、「４：縮小」、「５：廃止」で示す。

⑵　投資・財政計画の評価(収益的収支・資本的収支・補てん財源・資金残高等)

実績値と計画値を比較し、差が生じている場合にはその原因を分析する。

3　評価結果の概要

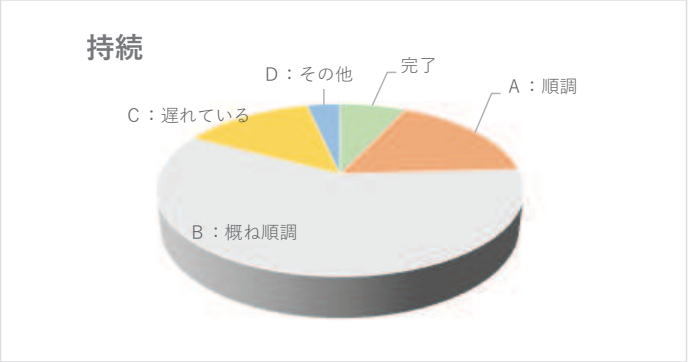
⑴　実現方策の評価結果(72 項目)

基本目標	施策方針	評価項目数
持続	組織体制の強化、健全経営の確保、官民連携の推進など	29
安全	良質な水源の確保、水源水質の保全、浄水施設の整備など	14
強靭	適切な水道施設の更新、管路の耐震化、応急給水の強化など	29

ア　「進捗状況」の評価結果(基本目標ごと)

【持続】

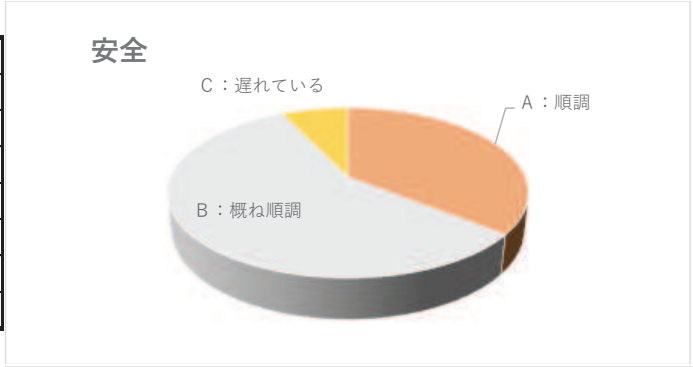
評価分類	令和６年度		令和７年度	
	項目数	割合	項目数	割合
完了	2項目	6.67%	2項目	6.90%
Ａ：順調	5項目	16.67%	5項目	17.24%
Ｂ：概ね順調	17項目	56.66%	17項目	58.62%
Ｃ：遅れている	5項目	16.67%	4項目	13.79%
Ｄ：その他	1項目	3.33%	1項目	3.45%
計	30項目	100.00%	29項目	100.00%



【安全】

評価分類	令和６年度		令和７年度	
	項目数	割合	項目数	割合
完了	0項目	0.00%	0項目	0.00%
A：順調	6項目	40.00%	5項目	35.72%
B：概ね順調	8項目	53.33%	8項目	57.14%
C：遅れている	1項目	6.67%	1項目	7.14%
D：その他	0項目	0.00%	0項目	0.00%
計	15項目	100.00%	14項目	100.00%

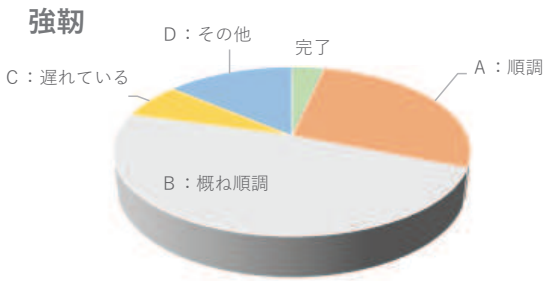
※個々の値の集計が100%にならないため、A:順調で調整を行う。



【強靭】

評価分類	令和６年度		令和７年度	
	項目数	割合	項目数	割合
完了	1項目	3.45%	1項目	3.45%
A：順調	8項目	27.59%	8項目	27.59%
B：概ね順調	14項目	48.27%	14項目	48.27%
C：遅れている	2項目	6.90%	2項目	6.90%
D：その他	4項目	13.79%	4項目	13.79%
計	29項目	100.00%	29項目	100.00%

※個々の値の集計が100%にならないため、B:概ね順調で調整を行う。

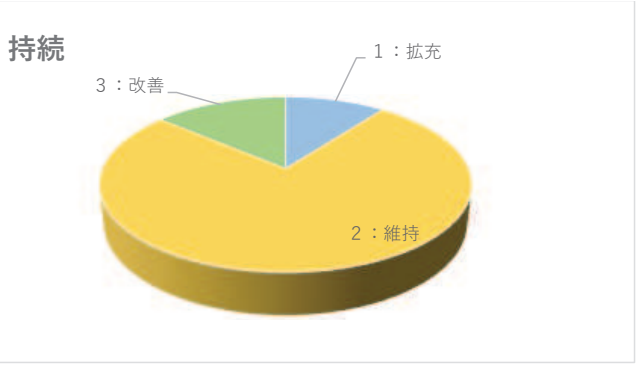


イ　「今後の方向性」の評価結果(基本目標ごと)

【持続】

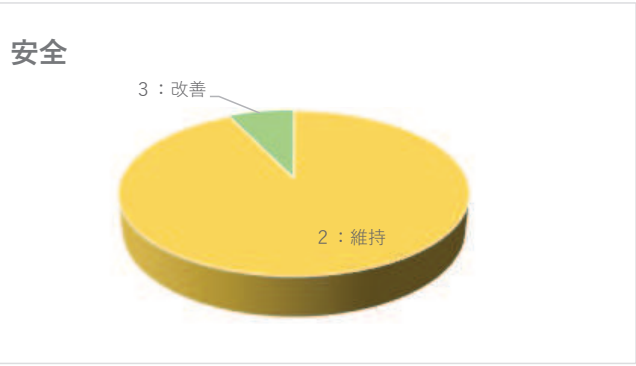
評価分類	令和６年度		令和７年度	
	項目数	割合	項目数	割合
1：拡充	4項目	13.33%	3項目	10.35%
2：維持	22項目	73.34%	22項目	75.86%
3：改善	4項目	13.33%	4項目	13.79%
4：縮小	0項目	0.00%	0項目	0.00%
5：廃止	0項目	0.00%	0項目	0.00%
計	30項目	100.00%	29項目	100.00%

※個々の値の集計が100%にならないため、1:拡充で調整を行う。



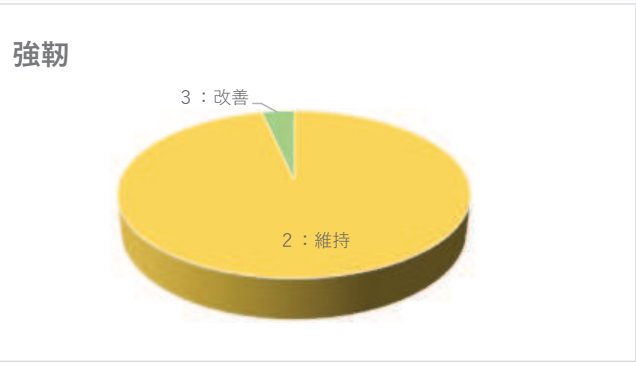
【安全】

評価分類	令和６年度		令和７年度	
	項目数	割合	項目数	割合
1：拡充	0項目	0.00%	0項目	0.00%
2：維持	14項目	93.33%	13項目	92.86%
3：改善	1項目	6.67%	1項目	7.14%
4：縮小	0項目	0.00%	0項目	0.00%
5：廃止	0項目	0.00%	0項目	0.00%
計	15項目	100.00%	14項目	100.00%



【強靭】

評価分類	令和６年度		令和７年度	
	項目数	割合	項目数	割合
1：拡充	0項目	0.00%	0項目	0.00%
2：維持	27項目	93.10%	28項目	96.55%
3：改善	2項目	6.90%	1項目	3.45%
4：縮小	0項目	0.00%	0項目	0.00%
5：廃止	0項目	0.00%	0項目	0.00%
計	29項目	100.00%	29項目	100.00%



ウ　主な各種指標の進捗状況

番号	各種指標	令和６年度実績	令和７年度実績	令和 16 年度目標
1	営業収支比率	114.66%	108.53%	108.70%
2	経常収支比率	117.44%	112.34%	110.00%
3	料金回収率	112.33%	106.69%	106.90%
4	有収率	80.86%	80.47%	87.70%
5	管路の更新率	0.28%	0.42%	0.25%
6	施設利用率	79.06%	80.11%	66.40%
7	一人一日平均配水量	366.78ℓ	370.39ℓ	335.00ℓ
8	配水池の耐震化率	55.20%	55.20%	70.40%
9	基幹管路の耐震適合率	61.57%	62.47%	63.60%

エ　主なもの

基本目標	具体的施策	今後の方向性
持続	①経営マネジメント力強化のための組織体制の検討	●総務省のアドバイザー派遣事業の活用による、経営・財政マネジメント力の向上
	②災害時における給水体制等の強化	●給水袋、給水タンクの計画的な購入 ●職員研修の実施（応急給水活動等）
	③専門性が求められる技術者や経理事務職員の確保・育成	●電気技師及び土木技師の配置に係る関係課との継続協議
	④人材育成のための人事サイクルの実施（再任用制度による熟練職員の確保）	●定年延長及び暫定再任用制度による技術と知識の継承
	⑤近隣自治体間の情報交換や研修会等の共同開催	●肝属地区水道協議会での研修会及び研修視察の充実
	⑥収支均衡した中長期的な投資・財政計画（経営戦略）の策定とその計画に基づいた健全経営	●改定後の経営戦略について、社会情勢の変化や計画の進捗状況に対応するため、３年から５年以内の見直し
	⑦施設台帳の整備と管路情報システムの制度の見直し	●水道施設台帳、管路情報システムへのデータ登録、更新 ●水道施設台帳（システム）のバージョンアップの実施
	⑧省エネ機器の導入	●機器更新時のインバーターポンプや高効率ポンプ等の導入

安全	⑨水源の適切な維持管理と計画的な施設の更新	●施設更新整備計画に基づく更新工事
	⑩予備力確保、水質悪化、取水量減少、施設統合等に対応した良質な水源開発の実施	●吾平、新栄地区の新規水源開発について、学識経験者の「意見に基づき調査を進める
	⑪指定給水装置工事事業者に対する資質保持等に必要な情報の提供等の実施	●更新申請時の資質の向上及び保持に関する助言、指導
強靭	⑫漏水調査など適切な維持管理による有収率の向上	●AI を活用した管路劣化診断の実施 ●成功報酬型契約（数量契約）による漏水調査の実施
	⑬断水被害対策等のための配水ブロック化による水運用管理の検討	●断水被害対策や有収率向上のため、配水ブロック化の検討
	⑭水道危機管理対策マニュアルの見直し、事業継続計画（BCP）の策定	●危機管理対策マニュアル（令和５年度改定）、事業継続計画（令和２年策定）は状況に応じ、適宜内容を改訂
	⑮水道施設のセキュリティ対策	●老朽化した防護フェンス等の更新
	⑯応援受入れ態勢の整備充実	●応援水道事業体受入れに係る訓練の実施検討

(2)　投資・財政計画の評価結果(令和７年度決算)

ア　収益的収支

①　収入について、給水収益は、物価高騰等の影響に伴う基本料金免除措置（173,058 千円）を実施したこと等により、対計画比で 129,536 千円の減となるが、その他営業外収益は、基本料金免除措置分について一般会計から繰入金を受け入れたこと等から、対計画比 184,668 千円の増となり、合計での対計画比は 53,543 千円の増であった。

②　支出について、職員給与費は、人事異動等の関係で対計画比 49,698 千円の増となり、委託料は、入札や委託内容の見直しにより、対計画比 47,396 千円の減となった。資産減耗費は、老朽管の除却が少なかったため減、減価償却費は、繰越工事等により計画より資産の取得が少ないことにより減となり、合計では対計画比 66,622 千円の減であった。

③　当年度純利益について、①と②の収支の結果、対計画比 120,165 千円の増であった。

イ　資本的収支

①　収入について、工事に伴う負担金の増等により、対計画比 887 千円の増で概ね計画通りであった。

②　支出について、その他が 186,212 千円の増となったが、地方債を 200,000 千円購入したことによるものである。

③　不足額については、①と②の収支の結果、対計画比で 169,930 千円の減であった。

ウ　評価結果

収益的収支は計画と比較し、その他営業外収益の増、委託料などの減で、純利益は計画値を大幅に上回った。一方資本的収支は地方債の購入により計画とのずれが生じたが、資金残高が対計画比で 231,266 千円増、事業収益に対する資金残高率は対計画比で 9.3 ポイントの増となったが、今後は物価高騰等の影響で損益は悪化し資金も減少傾向となることを想定している。

4　総括

「進捗状況と課題」では、技術の継承、適正な料金体制の検討及び有収率の向上等、課題のある施策もあるが、ポスターコンクールの実施や水道出前教室など市民とのコミュニケーションの活性化、中央監視制御による維持管理、水安全計画に基づく水質管理体制の強化等の施策評価で、「完了」、「Ａ：順調」及び「Ｂ：概ね順調」の合計割合が 83.33％を占めることから、概ね計画どおりに進んでいると判断する。

また、「今後の方向性」では、「１：拡充」及び「２：維持」の合計割合が 91.66％を占めておりますが、令和 6 年度に改定した「水道事業ビジョン（経営戦略）改訂版」と「施設規模適正化計画【改訂版】」に基づき、更なる効率化と革新性を追求し、多様な社会変動にも柔軟に対応できる持続可能な経営体制構築へ向けて一層努力していく必要があります。